

平成10年 4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

雑木林は芽ぶきの季節です

3月15日付の『広報おうめ』に＜一本一本に思いをこめて 桜の苗木150本を植栽＞という記事が載っていました。市街地に近い永山丘陵を桜の花で彩り、市民に親しまれる憩いの場にしようとして進めている永山桜山整備事業の一環です。21世紀の半ばには対岸の吉野梅林とともに青梅市の花の名所になることでしょう。

昭和30年代に一般家庭の燃料が大きく変化しました。それまでの薪や炭に替わってプロパンガスを使う家が急激に増えました。終戦から10数年を経てテレビや冷蔵庫などの電化製品が普及し始めたのと合わせて＜煙＞の無い便利で快適な生活は当時の人々の生活様式を大きく変えました。

同時に薪や木炭の原材料である＜雑木林＞が全国各地から姿を消していきました。青梅市付近でも人家に近い里山からコナラ、クヌギ、ソロ（シデ類）、クリ、ヤマザクラなどが総退陣し、その後地には建築材になるスギが広く植えられました。

里山ばかりではありません。当時は青梅市内でも西部・北部の山間地や東部の農村にはワラ葺き屋根の家が多く残っていました。その屋根を葺くにはススキが必要であり、各しゅうらくではススキを刈る茅場かやば、もしくは入会地いりあいちと呼ばれる共有地を持っていました。しかし、昭和40年代に始まった、わが国の経済あの高度成長期各家々の屋根がワラ葺きから、カワラやトタン葺きに変わり、茅場が要らなくなりました。それに合わせて丘陵地や山間部にあった茅場にもスギが植えられていきました。

それから30年。スギは成長期を経て壮年期になり、春先には花粉を盛んに飛ばすようになって、それが季節病の花粉症につながっているとも言われています。

雑木林は私たちの生活に薪や木炭を提供してくれます。(近ごろでは木炭の良さが再確認されて年々、需要が伸びています)。落ち葉も有機肥料として利用されます。春にはワラビ、ゼンマイ、ウド、タラノメなどの山菜を、秋にはクリ、アケビなど木の実やキノコ、それにアセンブリ、オトギリソウなどの薬草を山の幸として与えてくれます。虫や小鳥、小動物たちにも、食料やすみかを提供します。

雑木林には、ほっとする暖かさと安らぎがあります。4月半ばになりました。今、春真っ盛り。人々を風が誘います。花が招きます。近まわりの野や山にお出かけください。そこに新たな誘い出会有り、発見があることでしょう。

(文責 中西)

＊ 青梅市文化財保護指導委員会では、指導員を16年間勤められた野村慎三郎先生が3月で退任され、民話が専門で童話作家の小川秋子先生（柚木町）が新たに就任されました。

＊ 青梅市教育委員会発行新書籍のお知らせ

青梅市史史料集第47号 『仁君開村記 杉保志』 頒価1、500円
青梅市郷土博物館・青梅市教育センターで販売しております。